

## 山腹崩壊に係る地域対応でみえた国有林への期待 ～地域における森林管理署のあり方についての一考察～

北海道森林管理局 空知森林管理署 治山技術官 岡倉 洋平  
地域技術官 ○山本 晃揮  
一般職員 石田 翔也

### 1 課題を取り上げた背景

平成30年9月、北海道夕張市沼の沢の国有林で胆振東部地震の影響と思われる山腹崩壊が発生し、住民の方から通報がありました。

当地域は、過去に大規模な地滑りが発生し、既に多くの治山ダムを設置している箇所であり、また、遠望でも崩壊の規模が確認できたため、市を通じて土砂流出のおそれがないことを地域の皆様にお知らせしました。

しかし、翌年の7月に再び、「崩壊が広がったように見える」「昔も大きな地すべりがあったから不安だ」という通報が入りました。

2度の通報を受けて、地域の方々に安心していただくための行動を考える必要があると受け止め、署、森林事務所で連携したプロジェクトチームを立ち上げました。

### 2 取組の経過

住民の不安解消には、詳細な現地調査に基づいた説明が必要であると考  
え、以下の作業を進めました。

- ① 現地踏査及びドローンを活用した崩壊箇所と周囲の確認、測量
- ② 現地の山地災害履歴と治山工事の実績および効果の確認
- ③ 山地災害の種類とメカニズムおよび予防復旧対策のまとめ

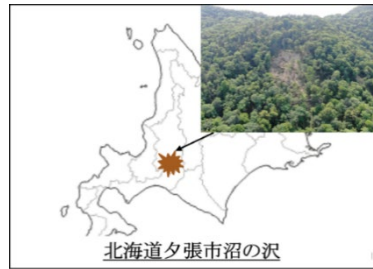


図1 位置図

調査の結果、崩壊地の面積、麓から崩壊地までの距離、下流の治山ダムの状況等を総合的に判断し、今後、同じような崩壊が起こっても土砂が下流まで到達する可能性は低いと判断しました。これらの調査結果をとりまとめ、説明会を実施しました。

### 3 実行結果

説明会では、町内会の方々、市の担当者の方から活発な質疑応答があり、治山事業や現地状況についてご理解を深めていただくことができました。町内会の方からは「麓に治山ダムがあるなんて知らなかった。説明を聞いて安心した。」「近くに見えるけれど、こんなに遠くにあることが分かった。国有林でこんなにダムを設置してくれていたとは思わなかった。」などの言葉をいただきました。

市からは町内会の広報で今回の住民説明の内容をお知らせしていただけることになりました。

説明会の後においても、崩壊地を定期的に撮影したものを公民館に掲示するなどこちらから積極的な情報発信を行っています。

また、今後同じことが起こったときに迅速に対応できるよう、職員の技術向上を目的としてドローンの講習会の開催や空中写真の画像処理方法のマニュアル化などを行っています。

### 4 まとめ

今回の取り組みの中で、森林管理署には、国有林の管理経営を通じて国民の皆様への安全・安心な暮らしを守る「森林行政」としての役割があることを実感しました。

その役割を果たすために、①地域に根づいた親しまれる組織、②地域と連携協力できる組織、③地域の声に対応できる組織の3つの理想の姿を目標とし、地域住民の皆様へ「ここに国有林があってよかった」と言ってもらえるよう、これからも国有林の管理経営及び民有林連携に取り組んでいきたいと思っております。



写真1 説明会の様子